

デーヴォ ガイド



2022.8.15-21

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

8:1 神は、ノアと、彼とともに箱舟の中にいた、すべての獣およびすべての家畜を覚えておられた。神は地の上に風を吹き渡らせた。すると水は引き始めた。

8:2 大水の源と天の水門が閉ざされ、天からの大雨がとどめられた。

8:3 水は、しだいに地の上から引いていった。水は百五十日の終わりに減り始めた。

8:4 箱舟は、第七の月の十七日にアララテの山地にとどまった。

8:5 一方、水は第十の月まで減り続け、第十の月の一日に、山々の頂が現れた。

8:6 四十日の終わりに、ノアは自分の造った箱舟の窓を開き、

8:7 鳥を放った。すると鳥は、水が地の上から乾くまで、出たり戻ったりした。

8:8 またノアは、水が地の面から引いたかどうかを見ようと、鳩を彼のもとから放った。

8:9 鳩は、その足を休める場所を見つけられなかった。箱舟の彼のもとに帰って来た。水が全地の面にあったからである。彼は手を伸ばして鳩を捕らえ、自分がいる箱舟に入れた。

8:10 それからさらに七日待って、再び鳩を箱舟から放った。

8:11 鳩は夕方になって、彼のもとに帰って来た。すると見よ、取ったばかりのオリーブの若葉がそのくちばしにあるではないか。それで、ノアは水が地の上から引いたのを知った。

8:12 さらに、もう七日待って、彼は鳩を放った。鳩はもう彼のところに帰って来なかった。

神はご自分の民を愛し、不安や忍耐の中にいる者を慈しんでくださいます。(滅ぼされた人々に関して

は、彼らがどれほど悪いものであったのかは聖書に記されていませんから、類推で論じても意味がないでしょう。) 神様はただ救うだけでなく、どんなときも共にいてくださるのです。

その後神は風を吹かせて、地上の環境を変えてくださいました。ノアたちの今後の生活を思いやつてのことです。同じように救いにあずかった私たちも、神様から思いやりの配慮をいただいています。必要なら主はすぐにでも状況を変えることのできるお方です。

水は次第に引いてゆきました。主の回復はみわざの後に徐々に進む場合が多いのです。その間、私たちは祈り、考え、主に感謝しつつ、新しい出発の備えができるのです。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



い。』

8:13 六百一年目の第一の月の一日に、水は地の上から干上がった。ノアが箱舟の覆いを取り払って眺めると、見よ、地の面は乾いていた。

8:14 第二の月の二十七日には、地はすっかり乾いた。

8:15 神はノアに告げられた。

8:16 「あなたは、妻と、息子たちと、息子たちの妻たちとともに箱舟から出なさい。

8:17 すべての肉なるもののうち、あなたとともにいる生き物すべて、鳥、家畜、地の上を這うすべてのものが、あなたとともに出るようにしなさい。それらが地に群がり、地の上で生子、そして増えるようにしなさい。」

8:18 そこでノアは、息子たち、彼の妻、息子たちの妻たちとともに外に出た。

8:19 すべての獣、すべての這うもの、すべての鳥、すべて地の上を動くものも、種類ごとに箱舟から出て来た。

8:20 ノアは【主】のために祭壇を築き、すべてのきよい家畜から、また、すべてのきよい鳥からいくつかを取って、祭壇の上で全焼のささげ物を献げた。

8:21 【主】は、その芳ばしい香りをかがれた。そして、心の中で【主】はこう言われた。

「わたしは、決して再び人のゆえに、大地にのろいをもたらすはしない。人の心が思い図ることは、幼いときから悪であるからだ。わたしは、再び、わたしがしたように、生き物すべてを打ち滅ぼすことは決してしない。

8:22 この地が続くかぎり、種蒔きと刈り入れ、寒さと暑さ、夏と冬、昼と夜がやむことはな

神によって救われたノアたちでしたが、またこの地上に戻りました。それは地上にまだ使命があるからです。彼らは「生き、ふえる」こと、そして救いの歴史の担い手になってゆくという目的があったのです。後にアブラハムとその子孫であるイスラエル民族、さらにはイエスさまの救いというように歴史が続いてゆきます。

地上には矛盾や問題がいっぱいですが、だからこそ主のみわざが必要であり、その担い手として私たちが必要なのです。勇気と決心を持って、箱舟からこの世へとチャレンジしてゆきましょう。

主は「地をのろうことはすまい」と、ノアとその子孫に繁栄の希望を与えてくださいます。私たちも主の祝福があることを信じて、安心して前進しましょう。その前提となっているのは、礼拝です。ノアにとって家畜や動物は貴重なものでした。しかしそれらも神様によって生かされ与えられているのです。

困難の多い人生だからこそ、先が見えないからこそ神を第一にしていきましょう。最もよいものを神にささげましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9:1 神はノアとその息子たちを祝福して、彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。

9:2 あなたがたへの恐れとおのきが、地のすべての獣、空のすべての鳥、地面を動くすべてのもの、海のすべての魚に起こる。あなたがたの手に、これらは委ねられたのだ。

9:3 生きて動いているものはみな、あなたがたの食物となる。緑の草と同じように、そのすべてのものを、今、あなたがたに与える。

9:4 ただし肉は、そのいのちである血のあるままで食べてはならない。

9:5 わたしは、あなたがたのいのちのためには、あなたがたの血の価を要求する。いかなる獣にも、それを要求する。また人にも、兄弟である者にも、人のいのちを要求する。

9:6 人の血を流す者は、人によって血を流される。神は人を神のかたちとして造ったからである。

9:7 あなたがたは生めよ。増えよ。地に群がり、地に増えよ。」

9:8 神は、ノアと、彼とともにいる息子たちに仰せられた。

9:9 「見よ、わたしは、わたしの契約をあなたがたとの間に立てる。そして、あなたがたの後の子孫との間に。

9:10 また、あなたがたとともにいるすべての生き物との間に。鳥、家畜、それに、あなたがたとともにいるすべての地の獣、箱舟から出て来たすべてのものから、地のすべての生き物に至るまで。

9:11 わたしは、わたしの契約をあなたがた

の間に立てる。すべての肉なるものが、再び、大洪水の大水によって断ち切られることはない。大洪水が再び起こって地を滅ぼすようなことはない。」

9:12 さらに神は仰せられた。「わたしとあなたがたとの間に、また、あなたがたとともにいるすべての生き物との間に、代々にわたり永遠にわたしが与えるその契約のしるしは、これである。

9:13 わたしは雲の中に、わたしの虹を立てる。それが、わたしと地との間の契約のしるしである。

9:14 わたしが地の上に雲を起こすとき、虹が雲の中に現れる。

9:15 そのとき、わたしは、わたしとあなたがたとの間、すべての肉なる生き物との間の、わたしの契約を思い起こす。大水は、再び、すべての肉なるものを滅ぼす大洪水となることはない。

9:16 虹が雲の中にあるとき、わたしはそれを見て、神と、すべての生き物、地上のすべての肉なるものとの間の永遠の契約を思い起こそう。」

9:17 神はノアに仰せられた。「これが、わたしと、地上のすべての肉なるものとの間に、わたしが立てた契約のしるしである。」

いのちについて神は、基本的な倫理観を与えます。動物は人を恐れるゆえに攻撃します。人は時には動物を殺してでも、命と生活を守る必要があります。また食用のために動物を殺すこともあります。それらは許されていることです。しかし命に対して無感覚にならないように、その尊厳を守るように教えられます。

それはなぜかと言えば、罪と救いの関係がすなわち死と命の関係だからです。この関係は密接に結びついています。

たとえ食用の動物であっても、血のまま…すなわち生きたまま苦しみを与えながら食することは、命に対する尊厳を麻痺させることになりかねません。当然、人の命は何があっても尊ばれなければなりません。そうでないと、私たちのいのちのためにご自分のいのちを犠牲にしてくださいましたイエス様の愛と救いの価値がわからなくなってしまいうでしょう。これは食べ方の律法ではなく、命の尊厳と救いの尊厳についての教えです。

そして神は「大洪水が地を滅ぼす」ことはない、希望の契約を与えてくださいます。神様からの一方的な契約であり祝福です。まさに十字架の招きのように、無条件ですべての人に与えられているものなのです。

十字架の救いを尊ぶために、命の尊厳について考えましょう。また主が一方的に愛してくださいましたことを心から感謝しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのだの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9:18 箱舟から出て来たノアの息子たちは、セム、ハム、ヤフェテであった。ハムはカナンカナンの父である。

9:19 この三人がノアの息子たちで、彼らから全世界の民が分かれ出た。

9:20 さて、ノアは農夫となり、ぶどう畑を作り始めた。

9:21 彼はぶどう酒を飲んで酔い、自分の天幕の中で裸になった。

9:22 カナンの父ハムは、父の裸を見て、外にいた二人の兄弟に告げた。

9:23 それで、セムとヤフェテは上着を取って、自分たち二人の肩に掛け、うしろ向きに歩いて行って、父の裸をおおった。彼らは顔を背け、父の裸は見なかった。

9:24 ノアは酔いからさめ、末の息子が自分にしたことを知った。

9:25 彼は言った。「カナンはのろわれよ。兄たちの、しもべのしもべとなるように。」

9:26 また言った。「ほむべきかな、セムの神、【主】。カナンは彼らのしもべとなるように。」

9:27 神がヤフェテを広げ、彼がセムの天幕に住むようになれ。カナンは彼らのしもべとなるように。」

9:28 ノアは大洪水の後、三百五十年生きた。

9:29 ノアの全生涯は九百五十年であった。こうして彼は死んだ。

セム、ハム、ヤフェテをそれぞれアジア、アフリカ、ヨーロッパの各人種の始祖とする人もいますが、それほど単純なものではありません。またノアののろいによってハムの子孫は繁栄しなかったという話を聞くことがあるかも知れませんが、根拠のないこと

です。アフリカ大陸よりも早くヨーロッパ大陸に文明が栄えたという根拠はないのです。

むしろノアの酔っての失態と、ノアの自分中心な宣言に注目しなければなりません。ノアといえども、罪人なのです。またハムは父親の恥をひけらかし、その関係にひびが入っていることがわかります。後の世代や社会の秩序にとって、父親の権威は基本的な価値観となるものです。洪水でリニューアルされたように見える世界も、結局は人の心根が変わらない限りは、問題と争いが続くのです。

父を敬うことは（「両親を敬え」とありますから、当然母も）、父のためだけではなく、自分とその子や孫のためでもあります。その第一歩は多くの場合、両親の失敗と恥を赦して覆うことから始まるのです。

また父（母も）は子どもの前でも謙遜で正直でありたいものです。尊敬されてないと感じても、怒ったり強制したりせずに、共に主の前に出て、自分が謙遜に成長する姿勢を見せることで祝福されるのではないのでしょうか。

十字架の救いによって新しく生まれた者には聖霊が働いてくださいます。その聖霊様こそが心根を変える力ですから、感謝しつつ聖霊に従いましょう。家族の回復、または部分的な癒し、さらなる祝福のために聖霊様に聞き従いましょう。そして、社会のため、主の栄光のために用いられる家系となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10:1 これはノアの息子、セム、ハム、ヤフェテの歴史である。大洪水の後、彼らに息子たちが生まれた。

10:2 ヤフェテの子らはゴメル、マゴグ、マダイ、ヤワン、トバル、メシエク、ティラス。

10:3 ゴメルの子らはアシュケナズ、リファテ、トガルマ。

10:4 ヤワンの子らはエリシャ、タルシシュ、キティム、ドダニム。

10:5 これらから島々の国民が分かれ出た。それぞれの地に、言語ごとに、その氏族にしたがって、国民となった。

10:6 ハムの子らはクシュ、ミツライム、プテ、カナン。

10:7 クシュの子らはセバ、ハビラ、サブタ、ラアマ、サブテカ。ラアマの子らはシェバ、デダン。

10:8 クシュはニムロデを生んだ。ニムロデは地上で最初の勇士となった。

10:9 彼は【主】の前に力ある狩人であった。それゆえ、「【主】の前に力ある狩人ニムロデのように」と言われるようになった。

10:10 彼の王国の始まりは、バベル、ウルク、アッカド、カルネで、シナルの地にあった。

10:11 その地から彼はアッシュルに進出し、ニネベ、レホボテ・イル、カルフ、

10:12 およびニネベとカルフの間のレセンを建てた。それは大きな町であった。

10:13 ミツライムが生んだのは、ルディ人、アナミム人、レハビム人、ナフトヒム人、

10:14 パテロス人、カスルヒム人、カフトル人。このカスルヒム人からペリシテ人が出た。

10:15 カナンが生んだのは、長子シドン、ヒッタイト、

10:16 エブス人、アモリ人、ギルガシ人、

10:17 ヒビ人、アルキ人、シニ人、

10:18 アルワデ人、ツェマリ人、ハマテ人。

その後、カナン人の諸氏族が分かれ出た。

10:19 それでカナン人の領土は、シドンからゲラルに向かって、ガザに至り、ソドム、ゴモラ、アデマ、ツェボイムに向かって、ラシャにまで及んだ。

10:20 以上が、その氏族、その言語、その地、国民ごとの、ハムの子孫である。

10:21 セムにも子が生まれた。セムはエベルのすべての子孫の先祖であり、ヤフェテの兄であった。

10:22 セムの子らはエラム、アッシュル、アルパクシャデ、ルデ、アラム。

10:23 アラムの子らはウツ、フル、ゲテル、マシュ。

10:24 アルパクシャデはシェラフを生み、シェラフはエベルを生んだ。

10:25 エベルには二人の息子が生まれ、一人の名はペレグであった。その時代に地が分けられたからである。彼の兄弟の名はヨクタンであった。

10:26 ヨクタンが生んだのは、アルモダデ、シェレフ、ハツアルマベテ、エラフ、

10:27 ハドラム、ウザル、ディクラ、

10:28 オバル、アビマエル、シェバ、

10:29 オフィル、ハビラ、ヨバブ。これらはみな、ヨクタンの子であった。

10:30 彼らが住んだ地は、メシヤからセファルに及ぶ東の高原地帯であった。

10:31 以上が、その氏族、その言語、その地、国民ごとの、セムの子孫である。

10:32 以上が、それぞれの家系による、国民ごとの、ノアの子孫の諸氏族である。大洪水の後、彼らからもろもろの国民が地上に分かれ出たのである。

32 節には、諸国の民がノアの兄弟から出たことが書かれています。人類は兄弟であることは聖書から言っても間違いないことです。人種や民族を超えて愛を表し、協力し、励まし合い、主のために一致することは可能なことであり、創造の理にかなっていることです。

ハムの子孫にカナンがあり、彼らはイスラエルの近くに位置して常に彼らを悩ませた民です。またニムロデは最初の権力者ですが、その意味は反逆者です。彼はバベルという神への反逆を企てる地を起こしたのです。権力を自分のために求める者は神に敵対するものであり、神から与えられた権力を神のために管理する者は神に仕える者です。

セムは肉においてはイエス様の祖先であり、最も詳しく書かれています。イエス様が現実の系図の中に生まれたことが示唆されています。現実に関われ、世界の歴史を動かす神の力を認め、信頼し、希望を持って生きましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11:1 さて、全地は一つの話しことば、一つの共通のことばであった。

11:2 人々が東の方へ移動したとき、彼らはシニアルの地に平地を見つけて、そこに住んだ。

11:3 彼らは互いに言った。「さあ、れんがを作って、よく焼こう。」彼らは石の代わりにれんがを、漆喰の代わりに瀝青を用いた。

11:4 彼らは言った。「さあ、われわれは自分たちのために、町と、頂が天に届く塔を建てて、名をあげよう。われわれが地の全面に散らされるといけないから。」

11:5 そのとき【主】は、人間が建てた町と塔を見るために降りて来られた。

11:6 【主】は言われた。「見よ。彼らは一つの民で、みな同じ話しことばを持っている。このようなことをし始めたのなら、今や、彼らが生きて企てることで、不可能なことは何もない。」

11:7 さあ、降りて行って、そこで彼らのことばを混乱させ、互いの話しことばが通じないようにしよう。」

11:8 【主】が彼らをそこから地の全面に散らされたので、彼らはその町を建てのをやめた。

11:9 それゆえ、その町の名はバベルと呼ばれた。そこで【主】が全地の話しことばを混乱させ、そこから【主】が人々を地の全面に散らされたからである。

シニアルに移住した人々は瀝青（れきせいーアスファルト）を発見し、新しい建築技術を手に入れました。そして人間の知恵は神をもしのぐと思ひ込んだのでしょう。天に届こうとまで考えました。

その動機も問題で、「名をあげよう」という功名心また優越感、「散らされるといけない」という神への不信と不従順、そして「名を」あげれば「散らされ」ずに思い通りになるという力の論理などが見て取れます。主はそれを見過ごしにはできませんでした。

彼らがそれらの動機で傲慢な都市国家を作るなら、必ず他の民への脅威となり、争いが生まれるでしょう。バベルとは神なき人間の権力と繁栄の象徴なのです。神様は彼らがコミュニケーションできないようにされましたが、これは基本的に自己目的な人間の集合体では当然起こることです。

世界の国家・民族間では、危機感と優越感、また神なき不従順と力の論理で事が行われており、互いにコミュニケーションできないような不理解不一致が続いていますが、このバベルでの出来事にその本質があるのです。

そこに解決を与えたのがペンテコステの出来事です。聖霊によって、各国のことばで話し出し、福音があらゆる民に伝わったのです。

誰もがこのバベルのような心情に陥り易いものであり、またそのような問題を抱えるものです。聖霊によって、神様の目的のために1つになれるように、求めましょう。聖霊様を歓迎しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11:10 これはセムの歴史である。セムは百歳のとき、アルパクシャデを生んだ。それは大洪水の二年後のことであった。

11:11 セムはアルパクシャデを生んでから五百年生き、息子たち、娘たちを生んだ。

11:12 アルパクシャデは三十五年生きて、シェラフを生んだ。

11:13 アルパクシャデはシェラフを生んでから四百三年生き、息子たち、娘たちを生んだ。

11:14 シェラフは三十年生きて、エベルを生んだ。

11:15 シェラフはエベルを生んでから四百三年生き、息子たち、娘たちを生んだ。

11:16 エベルは三十四年生きて、ペレグを生んだ。

11:17 エベルはペレグを生んでから四百三十年生き、息子たち、娘たちを生んだ。

11:18 ペレグは三十年生きて、レウを生んだ。

11:19 ペレグはレウを生んでから二百九年生き、息子たち、娘たちを生んだ。

11:20 レウは三十二年生きて、セルグを生んだ。

11:21 レウはセルグを生んでから二百七年生き、息子たち、娘たちを生んだ。

11:22 セルグは三十年生きて、ナホルを生んだ。

11:23 セルグはナホルを生んでから二百年生き、息子たち、娘たちを生んだ。

11:24 ナホルは二十九年生きて、テラを生んだ。

11:25 ナホルはテラを生んでから百十九年生き、息子たち、娘たちを生んだ。

11:26 テラは七十年生きて、アブラムとナホ

ルとハランを生んだ。

11:27 これはテラの歴史である。テラはアブラム、ナホル、ハランを生み、ハランはロトを生んだ。

11:28 ハランは父テラに先立って、親族の地であるカルデア人のウルで死んだ。

11:29 アブラムとナホルは妻を迎えた。アブラムの妻の名はサライであった。ナホルの妻の名はミルカといって、ハランの娘であった。ハランはミルカの父、またイスカの父であった。

11:30 サライは不妊の女で、彼女には子がいなかった。

11:31 テラは、その息子アブラムと、ハランの子である孫のロトと、息子アブラムの妻である嫁のサライを伴い、カナン地に行くために、一緒にカルデア人のウルを出発した。しかし、ハランまで来ると、彼らはそこに住んだ。

11:32 テラの生涯は二百五年であった。テラはハランで死んだ。

イスラエルの始祖であり、また信仰の父であるアブラムがどのような家系から生まれたか、そのルーツについて記し、その存在の確かさが示されています。ノアの失態を覆った良い息子の子孫からアブラムは出ているのです。

しかし反対の現実もあります。信仰の人ノアも酔って失態をさらし、感情で子どもを呪うというようなことをしてしまいました。またノアの子孫からバベルでの神への反逆が生まれました。信仰は子孫に必ずしも完全に伝わるとは限りません。

ただしこうも考えられるでしょう。信仰を孫子に伝えるのは難しい。だからこそしっかりとそれをする必要があります。基本的にこの世は神に背いたことから始まっています。その中でノアか

らアブラムに至る過程は勝利の実例なので。当然、家族の中で信仰が語られ、見せられ、そして育てられたからこそ、信仰の遺産がなくならずに後世に伝わったのです。難しいからこそしっかりとやりましょう。しっかりとやるためには、希望を持ち続けましょう。(信仰の家族から不信仰の子孫を生まないために)

アブラムの父であるテラは、愛する子どもをなくし、カナンへの途上であるカラン(またはハラン)に住み着いてしまいました。何か人生の目的へのあきらめが、そこにはあるようです。カランも月を信仰していた地ですから、信仰的にも妥協的でその結果本来の人生を送れずにそこで死んだようです。

しかし神様はそこから信仰の父アブラムを生まれさせたのです。神の計画は偉大です。生い立ちや家族がどうであっても、偉大な神の力を信じましょう。偶像に対して妥協せず、祝福された孫子とともに喜びが分かち合えるようにしましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

